特集

アルファ・リポ酸点滴療法によるがん治療

驚異の抗酸化剤アルファ・リポ酸

晩期C型肝炎の肝がんに対する苦痛と副作用のない治療法（経口抗ウイルス療法との関係についても）

村上正志
医療法人社団貴正会村上内科医院理事長
京都府立医科大学客員講師

はじめに

活性酸素の世界的権威である、パッカー先生の著書『アンチオキダントミラクル（抗酸化物の奇跡）』では、代表的な5つの抗酸化物（αリポ酸、ビタミンE、ビタミンC、コエンザイムQ10、グルタチオン）の中で『リポ酸は万能の抗酸化物』と冒頭に紹介されています。

パッカー先生は、リポ酸のことを高く評価されています。

私は日本ではあまり知られていないアルファ・リポ酸を、晩期のC型肝炎患者さんに積極的に投与しました。

アルファ・リポ酸の点滴療法を主体にして、晩期C型肝炎の肝がん治療、外科的手術後の再発予防、慢性期からの肝がん発症予防など、あらゆる肝がん治療に驚異的な効果を認めました。

末期のC型肝炎患者は、肝がんになりやすくなかなか治らないという暗いイメージがありますが、アルファ・リポ酸点滴で私は進行した肝炎でもまだがんにならずにすむという経験があり、『晩期C型肝炎』と呼ぶことにしました。

晩期C型肝炎の現状

晩期C型肝炎の人は、進行してくると肝がんに非常になりやすくなります。

肝がんは1度できると、内科的に消しても、外科的に切除しても、もぐらたたきのように次々に発症します。それは、他のがんと違って、肝がんの場合は、肝臓全体ががんになりやすい状態になっているからです。

現在の肝がんの標準的な治療には、CTでできるだけ早期に肝がんを発見し、ラジオ波での焼灼術、エタノール注入法、カテーテルによる塞栓化学療法、または抗がん剤（ネクサバール）の内服などがあります。

外科的治療は、肝がんが大きくなり、内科的治療が無理になった場合に行われます。

しかし、それらの治療は痛みと副作用が強く、がんが発見されるたびに治療がくり返されるのです。

患者さんの中には10回以上治療を受けている人もいて、そのような人にとっては治療は、終わりがなく、非常に苦痛を伴います。

ところで最近、C型肝炎の治療薬として経口の抗ウイルス薬が注目されています。

今までのインターフェロンと違い確かに治療中の患者さんの苦痛は大幅に減りました。経口薬だけでウイルスが消える夢のような薬です。

しかし、注意すべき点がふたつあります。

まずウイルスが消えてもがんにならないという保証はありません。現場の医師も患者さんもウイルスが消えたら完治したと思っている人が多くいることです。がんにならないという保証はありません。

このことはピロリ菌感染胃炎と同様に考えるべきです。除菌しても胃がんになることは誰も否定していません。

次に経口ウイルス剤も副作用があります。私の患者さんは腎障害（腎不全）、黄疸がでました。副作用がきっかけとなったら、治療途中でも中止したほうが安全です。

ビタミンC点滴からアルファ・リポ酸点滴での肝がん治療

高濃度ビタミンC点滴は、あらゆるがんに対して副作用がなく、効果が認められる方が多数います。

最初私は晩期C型肝炎の患者さんに対して、肝庇護剤に高濃度ビタミンC点滴の併用で肝がん発生予防を期待しましたが効果がありませんでした。

そんなとき、パッカー先生の本の中で、点滴療法研究会で講演されたバートン先生が、アルファ・リポ酸で末期の肝臓病に効果があったと記載されており、私は迷わずにビタミンC点滴からアルファ・リポ酸点滴に変更しました。

すると、ほとんどの晩期C型肝炎の人に効果が見られたのです！

効果の現れる時期は人により違いがありましたが、ほとんどの方が肝がんの腫瘍マーカー（AFP）に改善が見られ、腹部CT検査でも再発が認められなくなりました。

アルファ・リポ酸点滴により、苦痛を伴う標準的肝がん治療をしなくてすむようになったのです！

アルファ・リポ酸点滴療法の実際

アルファ・リポ酸点滴療法は、短期集中的に投与する方法、またはビタミンC点滴と併用する方法とかいろいろな方法があります。

私の経験では、晩期C型肝炎からの肝がんは、他のがんと違って急に出現したものでなく、肝臓そのものがウイルスにより長い間にダメージを受けており、簡単に治るものではありません。

そこで時間的、経済的なことも考えて当院では、最初から高濃度ビタミンC点滴と同じ回数で行っています（1週間に2回）。

また、肝臓の破壊が現在もおこっている人は肝庇護剤も併用しています。

当院でアルファ・リポ酸点滴をしている方は他院通院中の方がほとんどですので、検査データやCT検査などの結果を検討しながら治療をしています。

当院では晩期C型肝炎は、肝がんにはならない病気であり、何回も再発している人でも再発しなくなる存在になりつつあります。

だから点滴治療中も皆、笑顔で安心感がただよっています。

VC点滴よりアルファ・リポ酸点滴に変えた症例

症例1　63歳、男性

晩期C型肝炎で、1994年より肝庇護剤（強ミノCとウルソ）で治療するもAFPが少しずつ増加。

2008年、肝がん発症予防のため高濃度ビタミンC点滴を開始。以後年に2回、ダイナミック